

検査情報月報



2010
3010
4月

横浜市衛生研究所

2010年4月号 目次

【トピックス】

- 平成21年度 食品中異物検査（昆虫類）のまとめ・・・・・・・・・・ 1
平成21年度 食品等の苦情品検査（10～3月）・・・・・・・・・・ 4

【感染症発生動向調査】

- 感染症発生動向調査委員会報告 3月・・・・・・・・・・ 8

【検査結果】

- 医動物検査・・・・・・・・・・ 12

【情報提供】

- 衛生研究所 WEB ページ情報（21年度3月分）・・・・・・・・・・ 14

検査情報月報の表紙をリニューアルしました

この度、8年ぶりに検査情報月報の表紙をリニューアルしました。
市内で表紙のデザインを募集したところ、4名7作品の応募がありました。厳正な審査の結果、そのうちの1作品に決定しました。

〔表紙のコンセプト〕

デフォルメした試験管の中の液体（マゼンダ系の色）で「検査情報月報」の頭文字「K」、研究所の「K」をデザインしました。



試験管が重なって見える中央部分のダイヤ型の模様で「検査の精度」を、また、それが鏡面のような所に映り込むことと、シンプルな全体で「クリーンな検査」をイメージしました。

なお、全体では、花が咲いた形で、「花開く技術レベルと信頼性」を表現しました。

平成21年度 食品中異物検査(昆虫類)のまとめ

医動物担当では、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者等の依頼を受け、昆虫類を中心とした食品中異物検査を行っています。平成21年度の検査実績は、13件15検体でした。

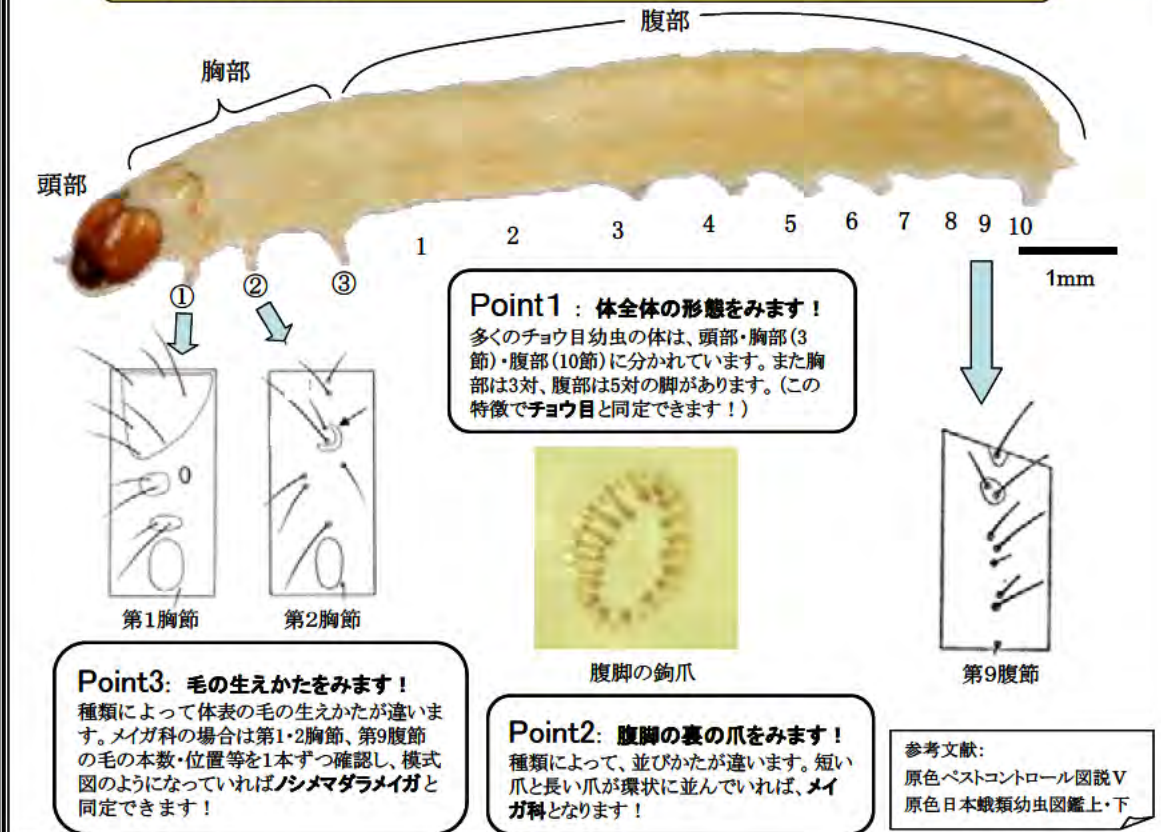
依頼された15検体のうち昆虫類は13検体で、上位3目は、コウチュウ目(5検体)、チョウ目(4検体)、ハエ目(2検体)でした。今回は、同定結果の詳細を報告します。

食品名	苦情内容	異物写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態その他
はいが食パン	はいが食パン(給食)に虫がいるのを発見した。		タバコシバンムシ (コウチュウ目 シバンムシ科)	成虫の体長は2~3mm。パン、ビスケット、ココアなど多くの乾燥食品を加害する代表的な食品害虫である。
		成虫、茶褐色、約2.5mm		
パセリ	惣菜に添えられていたパセリに虫がついていた。		ハエ類 (ハエ目)	ハエ類には非常に多くの種が含まれる。生ゴミ、排水管や下水、動物の糞などあらゆる動植物質から発生する。
		幼虫、乳白色、約5mm		
缶ビール	缶ビールを飲んでいたら、虫が出てきた。		ゴキブリ類 (ゴキブリ目)	屋内で見られるゴキブリは雑食性で、植物性、動物性の食品はたいてい食べる。成虫幼虫ともに日中は屋内の潜伏場所で過ごし、夜になると餌と水を求めて活動する。
		幼虫、茶褐色、約13mm		
米	米の中に入っていた。		チョウ目(ガ) の一種	成虫の体翅は細かい鱗片で覆われる。食品を加害するのは、主に幼虫である。生活様式は多様で、一般的には植物や乾燥動植物食品などを食害する。
		成虫、茶褐色、約5mm		
ハーブティ	ハーブティ(茶葉)に虫が混入していた。		ゾウムシ科 の一種 (コウチュウ目)	体は小型から中型で、多くは卵形から長楕円形で厚みがある。口部は吻状に長くのびる。成虫、幼虫ともにほとんどが植食性である。食性は種類によって異なる。
		成虫、茶褐色・斑模様、約12mm		

食品名	苦情内容	異物写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態その他
肉まん	肉まんに小さな虫が付着していた。		マドチャタテ科 の一種 (チャタテムシ目)	初夏から秋にかけて発生する。平地のやや湿潤な樹幹などで生活する種や、各種の植物の葉裏に生ずるカビ類を食べる種、家屋内から発生する種などがある。
		成虫、褐色、約1.5mm		
生うに	生うにの中に幼虫が混入していた。		オオクロバエ (ハエ目 クロバエ科) *写真は飼育後羽化した成虫	成虫の体長は約10～15mm、終齢幼虫は約20mmである。幼虫は動物死体、厨芥、汲み取り便所などから発生する。全国に分布する普通種である。
		幼虫、乳白色、約14mm		
ローズヒップ ハーブティ	ローズヒップハーブティーの中に幼虫が入っていた。		チョウ目(ガ) の一種	食品を加害するのは、主に幼虫である。生活様式は多様で、一般的には植物や乾燥動植物食品などを食害する。
		幼虫、乳白色、約6mm		
白いんげん豆	白いんげん豆に甲虫が混入していた。		インゲン マメゾウムシ (コウチュウ目 マメゾウムシ科)	成虫の体長は約3～4mm。貯蔵インゲンの害虫。成虫は卵を豆粒表面に産みつけず、豆粒の隙間に産卵する。孵化幼虫は歩行して豆粒内に侵入する。世界共通種。
		成虫、褐色・斑模様、約4mm		
干しいちじく	干しいちじくに虫が混入していた。		ノシメ マダラメイガ (チョウ目メイガ科) チョウ目(ガ) の一種	終齢幼虫の体長は約10mm。幼虫は穀物、ナッツ、チョコレート、乾燥果実、豆菓子など多くの貯蔵食品、乾燥食品を食害する。 <u>*章末に同定Pointを紹介しています。</u>
		幼虫・蛹脱皮殻、茶褐色、6～7mm		
			タバコ シバンムシ (コウチュウ目 シバンムシ科)	成虫の体長は2～3mm。パン、ビスケット、ココアなど多くの乾燥食品を加害する代表的な食品害虫である。
		成虫、茶褐色、約2mm		

食品名	苦情内容	異物写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態その他
ミルクココア	ココアに幼虫が混入していた。		タバコシバンムシ (コウチュウ目 シバンムシ科)	幼虫の体長は約3.5mm。食品を加害するのは幼虫のみで、パン、ビスケット、ココアなど、多くの乾燥食品を加害する代表的な食品害虫である。
		幼虫、乳白色、約3.5mm		
ボイル ホタルイカ	ボイルホタルイカに混入していた。		コウラナメクジ科 の一種 (マキガイ綱 マイマイ目)	家屋の内外、畑、山林など生息地は広い。おおむね夜行性で、日中はあまり活動しない。食物は植物や枯木など広範囲に及び、野菜類の害虫となる。
		茶褐色、約25mm		
野菜炒め	飲食店内で野菜炒めを口に入れたところ、爪のような異物が入っていた。		昆虫類の脱皮殻や人の爪など、生物由来物質ではなかった。 (プラスチックと推定)	
		白色透明、約7mm		

ノシメマダラメイガ幼虫の同定はこんなところを見えています！
(チョウ目メイガ科)



Point1: 体全体の形態をみます!
多くのチョウ目幼虫の体は、頭部・胸部(3節)・腹部(10節)に分かれています。また胸部は3対、腹部は5対の脚があります。(この特徴でチョウ目と同定できます!)

Point2: 腹脚の裏の爪をみます!
種類によって、並びかたが違います。短い爪と長い爪が環状に並んでいれば、**メイガ科**となります!

Point3: 毛の生えかたをみます!
種類によって体表の毛の生えかたが違います。メイガ科の場合は第1・2胸節、第9腹節の毛の本数・位置等を1本ずつ確認し、模式図のようになっていれば**ノシメマダラメイガ**と同定できます!

参考文献:
原色ペストコントロール図説V
原色日本蛾類幼虫図鑑上・下

【医動物担当】

平成21年度 食品等の苦情品検査(10～3月)

-食品添加物担当で行った理化学検査-

平成21年度下半期に、福祉保健センター等に届けられた食品等に関する苦情品の中で、原因究明のために食品添加物担当へ搬入された検体は28件35検体でした。苦情の内容は様々ですが、異物混入が多くみられました。理化学検査を中心に行ったうち主な検体の検査結果は次のとおりです。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
金柑の砂糖漬 け	異臭がして食べられない。	官能検査 酢酸エチル エタノール GC/MS分析 結果	かんきつ類特有の匂いを強く認めたが、異臭は認められなかった。 不検出 不検出 ヘッドスペース法で有機溶剤について分析したところ、トリハロメタン等23物質は認められなかった。 かんきつ類特有の匂いが非常に強いいため、異臭と感じられたのではないかと考えられた。
プーアル茶中の異物 	ガラス片が入っていた。	外観 顕微鏡 マイクロアナライザー 赤外分光分析 結果	大きさ3×2.5mm、厚さ1mm、不定形の無色透明のガラス様の固まり。 表面は滑らかであり、全体的に擦り傷や茶色～黒色の汚れが見られた。 酸素、ケイ素、ナトリウム、カルシウム、マグネシウム等を認めた。 ガラスに類似した吸収スペクトルを認めた。 ガラスの欠片と推定された。
土鍋 	調理の際に土鍋の縁から黒い液が浸み出す。	外観 顕微鏡 原子吸光分析 再現性試験 容器の溶出試験 結果	直径18cmの土鍋。土鍋の口部分に灰黒色の付着物を認めた。 付着物は砂状の固まりで、スパーテルで強く擦ると剥がれ落ちた。 付着物から鉄を検出した。また、鉛、カドミウム、スズ、ヒ素は不検出であった。 付着物の検査後に土鍋に水を張り20分間沸騰させたが、黒い液の浸出を確認できなかった。 鉛、カドミウムともに不検出。 付着物は鉄であった。当所では黒い液の浸出が確認できなかったため、原因の特定には至らなかった。
菓子パン中の異物 	小さな金属球が入っていた。	外観 顕微鏡 磁性 マイクロアナライザー 結果	直径4.0mm、重さ0.256g。表面が全体的に黒ずんだ銀色の金属球。 所々に黒いまだら模様を認めた。 磁性を認めた。 鉄を認めた。 鉄製の金属球と推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
パン中の異物 	食パンを食べていたところ、異物を発見した。	外観 マイクロスコープ 光学顕微鏡 電子顕微鏡 結果	長さ5mm×7mm、重さ11mgの黒色の固まり。パンの内部に付着しており、硬くポロポロと崩れた。 白い毛状のものを多数認めた。 毛の部分に髓を認めた。ネズミの毛の髓に類似していた。 ネズミの毛に類似した小皮紋理(キューティクル)を認めた。 ネズミの糞と推定された。
カレー中の異物 	自宅で調理したカレーから繊維状の異物が出てきた。	外観 マイクロスコープ 光学顕微鏡 結果	長さ1.5～8cm、茶色及び赤色の弾力のある異物で、細く筒状に丸まっていた。 異物を広げると薄い膜状であり、水及びアルコールで洗浄すると、茶色異物は淡黄色になり、赤色異物は色落ちして所々黄色になった。 茶色及び赤色異物について顕微鏡観察を行ったところ、植物の細胞を認めた。 植物片と推定された。
唐揚中の異物(給食) 	鶏の唐揚から金属の糸くずが出てきた。	外観 マイクロスコープ 磁性 マイクロアナライザー 結果	長さ11mm×幅0.5mm、重さ1.7mg。銀色のテープ状の金属片。 幅が均一であり、表面は比較的滑らかで、長い方向にスジが走っていた。 わずかに磁性を認めた。 鉄、クロム、ニッケルの元素を認めた。 形状や成分から、ステンレス製の金属たわしの一部と推定された。
調味料中の異物 	ビン詰調味料中に髪の毛様の異物が入っていた。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 結果	未開封のビン詰容器の底に黒い毛髪様の異物を認めた。異物は、長さ13cm、太さ90～100μm、重さ1mgであった。 片端は引きちぎられた様な形状をしており、もう一端は斜めにカットされていた。 髓があり、人と同様の小皮紋理(キューティクル)を認めた。 人の毛髪と推定された。
ネギトロ巻き中の異物 	白い毛髪様の異物が入っていた	外観 マイクロスコープ 光学顕微鏡 電子顕微鏡 結果	長さ38mm、太さ0.06mm、波状の毛状物質。色は白色で、片方の先端から約1cm部分は淡茶色であった。 片方に毛根を認めた。反対側は切断されていた。 根元と先端には髓は認められなかったが、その他の部分では連断続状の髓を認めた。 人と同様の小皮紋理(キューティクル)を認めた。 人の毛髪と推定された。
さんまのつみれ	食後1時間以内に顔面紅潮、動悸、頭痛、発疹の症状がでた。	ヒスタミン 結果	5.8g/kg ヒスタミン中毒と推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
冷凍まぐろの刺身	夕食に食べたところ、翌朝じんましんがでた。	ヒスタミン 備考	不検出 残品はないため、検体は苦情者が同時購入した参考品であった。
カレー弁当中の異物 	カレーに輪ゴムが入っていた。	外観 性状 顕微鏡 光学顕微鏡 燃焼性 ニンヒドリン反応 キサントプロテイン反応 ビュレット反応 赤外分光分析 結果	長さ9cm、太さ0.5～0.8mm、重さ47mg。茶褐色で細長く固い繊維状の物質。 水に浸しておいたものは柔らかくなり、容易にカッターで切断できた。 表面に細かいスジが多数走っていた。 メチレンブルーで染色した切片を観察したところ、多数の細い繊維状の組織が認められた。 タンパク質を燃やしたような臭いを発し、燃えた。 陽性 陽性 陽性 タンパク質と同様な赤外吸収スペクトルを認めた。 タンパク質からなる繊維と推定された。
干し柿	食べたところクレオソートのような薬品臭を感じた。	官能検査 p-クレゾール 酢酸エチル エタノール 備考	5名で行ったところ、異臭は認められなかった。 不検出 不検出 33ppm 参考品(同ロット未開封品)についても行ったところ、p-クレゾール不検出、酢酸エチル不検出、エタノール17ppmであった。 なおエタノール量は熟成具合などによって異なるため、苦情品と参考品を比べると数10ppmレベルでは差はないと考えられる。
パスタ中の異物 	パスタを調理して食べおわると、歯にやわらかいものがついていた。この異物が何か調べてほしい。	外観 顕微鏡 光学顕微鏡 赤外分光分析 ニンヒドリン反応 結果	大きさ4×2mm、4×2mm、2×2mm、重さ3mg(合計)の白～薄茶の物質。 1つは薄い膜状、他の2つはひも状のものが固まりになったような形状であった。 タンパク質と同様な赤外吸収スペクトルを認めた。 陽性 タンパク質の固まりと推定された。
お茶	購入した2Lペットボトルのお茶を、別のペットボトルに小分けしたら異臭がした。	外観 官能検査 pH Brix% 残留塩素 界面活性剤 GC/MS分析 結果	淡黄色透明の液体で、振ると非常に泡立った。なお容器にキズやピンホールなどの異常は認められなかった。 5名で行ったところ、非常に強い塩素臭を認めた。 8.3 1.5% 510ppm 検出 アルキルアミンを検出(マススペクトルのライブラリー検索による) 塩素剤と界面活性剤の混入が推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
野菜炒め中の異物 	飲食店内で野菜炒めを食べていたところ、爪のような異物が出てきた。	外観 マイクロスコープ 燃焼性 赤外分光分析 結果	大きさ9mm×1.4mm、重さ1.2mg。弓状の白色異物。透明で微細な房状の固まりが連なったもの。加熱したところ、プラスチックを燃やしたような臭いを発した。 エチレン プロピレン樹脂と同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 エチレン プロピレン樹脂の破片と推定された。
大福中のプラスチック様片 	大福を食べていたところ、無色透明なプラスチック片のような異物がでてきた。	外観 マイクロスコープ 赤外分光分析 結果	大きさ15mm×5mm、厚さ1.5mm、重さ57mg。無色透明のプラスチック様の破片。 両面は滑らかで、表面には1.5mm幅の縞模様のようなものがあり、裏面には縦方向に多数のキズが見られた。 ポリプロピレンと同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 ポリプロピレン樹脂の破片と推定された。
ショーロンポー中の異物 	具の中に棒状の異物が入っていた。	外観 マイクロスコープ 赤外分光分析 カルシウム定性試験 硫酸塩定性試験 IC分析 結果	大きさ 12.9mm×8.7mm、 8.2mm×4.6mm、重さ 0.72g 0.19gの2個の灰白色の碎けやすいペレット状の固まり。なお残品10個について内容物を確認したところ、異物は認められなかった。 全体的に灰白色で、所々淡褐色の部分があり、拡大すると白い結晶状の固まりを認めた。 硫酸カルシウムと類似した赤外吸収スペクトルを認めた。 陽性 陽性 硫酸イオン及びカルシウムイオンのピークを認めた。 硫酸カルシウムの固まりと推定された。

【 食品添加物担当 】

感染症発生動向調査委員会報告 3月

今月のトピックス

- インフルエンザの集団感染からB型が検出されました。病原体定点からはまだ検出されていません。季節型インフルエンザのA型も未検出です。
- 髄膜炎菌性髄膜炎の報告が1件見られました。
- 水痘の報告が増えています。都筑区が高めです。
- 伝染性紅斑が増えています。瀬谷区と泉区が高めです。
- 流行性耳下腺炎が過去5年でも高めに推移しています。

平成22年2月22日から3月21日まで(平成22年第8週から第11週まで。ただし、性感染症については平成22年2月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成21年 週 - 月日対照表

第 8週	2月22～28日
第 9週	3月 1～7日
第10週	3月 8～14日
第11週	3月15～21日

全数把握疾患

< 腸管出血性大腸菌感染症 >

1件の報告がありました。国内での感染です。感染経路は不明でした。

< レジオネラ症 >

1件の報告がありました。感染経路は不明です。

全国的にも患者報告数は増加傾向にあります。

2009年は全国で712件(肺炎型681件 ポンティアック型23件、無症状病原体保有者8件)でした。

< HIV感染症 >

2件の報告がありました、2月の追加報告も2件あり、計4件が新たに報告されました。4件のうち、2件はすでにAIDSの状態でした。HIV感染症については、早い時期の感染の判明で、適切な時期に治療を開始できるほかに、パートナーへの感染予防等が可能なこともありますので、無症状の時期での判明が非常に重要です。

< 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 >

1件の報告がありました。悪性疾患術後でした。

< 髄膜炎菌性髄膜炎 >

1件の報告がありました。国内に多いとされるB群髄膜炎菌によるものでした。国内では終戦前後4000人を超す報告があり、現在では一桁の報告数と著減していますが、アフリカでは「髄膜炎ベルト」と称される高罹患地帯があったり、各国でアウトブレイクが報告されている等世界的には未だ重要な感染症です。諸外国では、健康保菌者は、5～20%と高いのに比べ、日本の健康保菌者は1%以下と低い状況ですが、流行を起こす可能性もあり、注意すべき感染症の一つです。今回の事例は予防内服等が行われ、感染拡大は見られていません。横浜市での直近の報告は2005年に1件ありました。

表1. レジオネラ症患者報告数
1999～2008年

診断年	総数	男	女
1999*	56	42	14
2000	154	125	29
2001	86	78	8
2002	167	139	28
2003	147	127	20
2004	160	151	9
2005	281	252	29
2006	518	452	66
2007	668	527	141
2008**	686	529	157

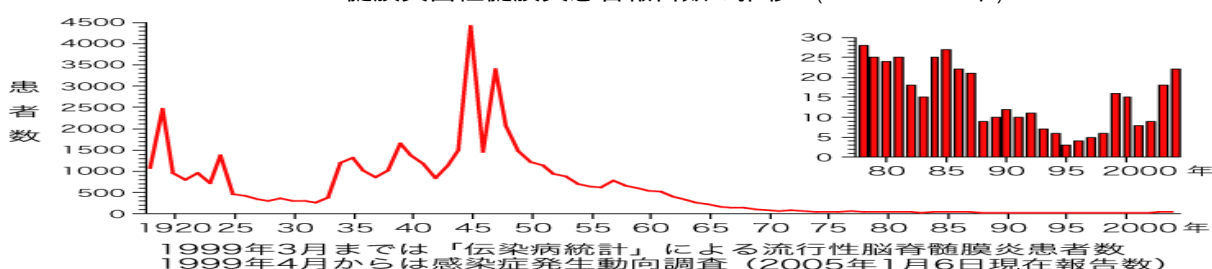
*4～12月、**1～9月

(感染症発生動向調査：2008年
10月11日現在報告数)

IASR

Infectious Agents Surveillance Report

髄膜炎菌性髄膜炎患者報告数の推移 (1918～2004年)



出典：国立感染症情報センターWEBページ

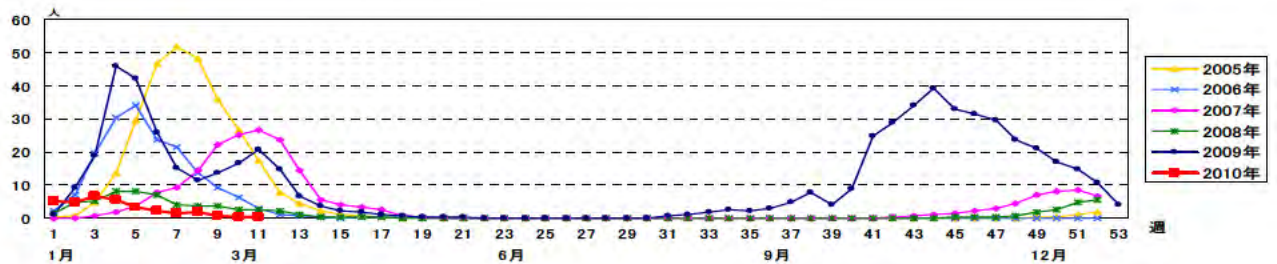
定点把握疾患

1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:88か所、内科定点:57か所、眼科定点:18か所、性感染症定点:26か所、基幹(病院)定点:3か所の計192か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計145定点から報告されます。

<インフルエンザ>

今シーズンは、昨年第44週にピークを示しましたが、その後漸減し、第11週は、定点あたりの報告数が0.37でした。神奈川県(横浜、川崎を除く県域 以後県域)では0.31、川崎市0.32、東京都0.41、全国0.41と何れも低値です。定点医療機関にご報告いただいている迅速診断キットでは、A型24件、B型28件とB型の報告が多くなっていますが、ピーク時の第44週にはA型4181件、B型8件でしたので、全体の報告数は著減しています。



<RSウイルス感染症>

過去5年で最大の数値で推移していましたが、第11週は0.09と、例年レベルまでに落ち着いてきました。

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

例年、春季を中心とした流行の後に夏季には大きく低下してきます。第11週は定点当たり2.18でした。県域では1.41、川崎市1.72、東京都1.70、全国1.61でした。行政区別では磯子区7.00、港北区4.83、泉区3.67が高めです。

<感染性胃腸炎>

今年に入り報告数が増えていましたが漸減し、第11週は8.88でした。県域11.58、川崎市16.19、東京都11.01、全国10.06と何れも横浜市より高めです。行政区別では泉区が18.00と比較的高値です。

<水痘>

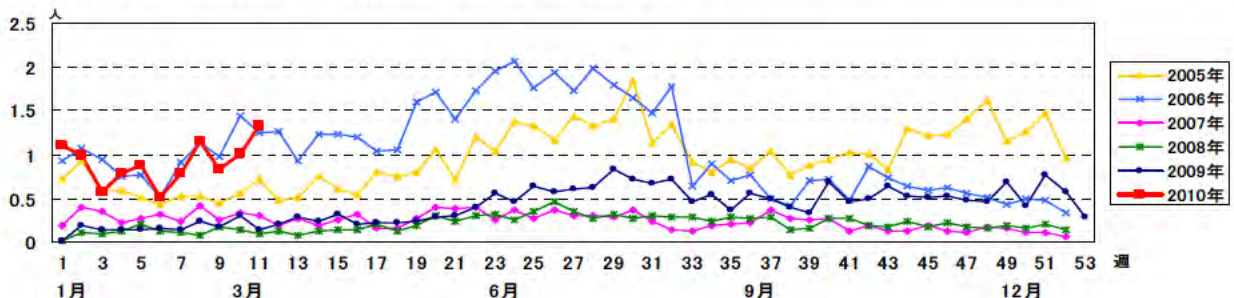
例年、年末年始にかけて発生が増加しますが、第11週は1.82と漸増しています。県域では1.90、川崎市3.00、東京都2.06、全国1.87でした。行政区別では都筑区8.50、神奈川4.00、瀬谷区3.00が高めです。

<伝染性紅斑>

連年春先から夏にかけて増加が見られますが、第11週は0.49と漸増しています。県域では0.53、川崎市0.34、東京都0.24、全国0.17でした。行政区別では瀬谷区と泉区が2.00と高めです。

<流行性耳下腺炎>

過去5年間でも高めに推移しています。第11週は1.32でした。県域では1.24、川崎市0.41、東京都0.69、全国1.157でした。行政区別では泉区と瀬谷区が4.33と高めです。



< 性感染症 >

性感染症は、産婦人科系の11定点、および泌尿器科・皮膚科系の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。

2月は、1月に比べて全体としては横ばいですが、淋菌感染症がやや増加しています。性器クラミジア感染症は男性23例女性21例、性器ヘルペス感染症は男性9例女性12例、尖圭コンジローマは、男性3例女性6例、淋菌感染症は男性15例女性1例と、1月と同じ状況です。

【感染症・疫学情報課】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:5か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点8か所を2グループに分け、4か所ごと毎週実施し、インフルエンザ定点は特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。眼科と基幹定点は、対象疾患の患者から検体採取ができた時に随時実施しています。

< ウイルス検査 >

2010年3月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点50件(鼻咽頭ぬぐい液46件、ふん便3件、吐物1件)、内科定点8件(鼻咽頭ぬぐい液)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気道炎33人、胃腸炎7人、インフルエンザ5人、RSウイルス感染症2人、発疹症2人、伝染性紅斑症1人、内科定点はインフルエンザ3人、気道炎5人でした。

4月9日現在、小児科定点のインフルエンザ患者4人と気道炎患者2人、内科定点の気道炎患者1人から新型インフルエンザウイルス(AH1pdm)、小児科定点のインフルエンザ患者1人と気道炎患者1人からアデノウイルス(このうちインフルエンザ患者からはAH1pdmも重複して検出)、が分離されています。

これ以外に、遺伝子検査では小児科定点の気道炎患者3人とインフルエンザ患者1人、発疹症患者1人からAH1pdm、小児科定点の気道炎患者6人とRSウイルス感染症2人からRSウイルス、胃腸炎患者2人からそれぞれアデノウイルス5型と41型が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【検査研究課 ウイルス担当】

< 細菌検査 >

3月の感染性胃腸炎関係の受付は小児科定点からの1件で起因菌は検出されませんでした(表)。

大腸菌の受付は基幹定点からの12件と定点以外の医療機関からの1件で、腸管出血性大腸菌O157、V T1&2が2株と腸管病原性大腸菌が1株検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点からの4件でA群溶血性レンサ球菌が4件すべてから検出されました。その血清型はすべてT1でした。

細菌性の髄膜炎から分離された検体の受付が、定点以外の医療機関から1件あり、髄膜炎菌が検出されました。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症*から分離された検体の受付が、定点以外の医療機関から1件あり、A群溶血性レンサ球菌が検出されその血清型はT1でした。

表 感染症発生動向調査における病原体検査 3月(細菌検査)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	3月			2010年1～3月		
	小児科	基幹	その他**	小児科	基幹	その他**
菌種名						
赤痢菌					1	1
腸管病原性大腸菌		1			2	
腸管出血性大腸菌		1	1		1	9
不検出	1	10		2	26	

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	3月			2010年1～3月		
	小児科	基幹	その他**	小児科	基幹	その他**
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌						
T1	4		1	9		1
T12				1		
T B3264				1		
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌					2	
バンコマイシン耐性腸球菌						1
髄膜炎菌			1			1
不検出				3		3

** 定点以外医療機関(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

* 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

A群 溶血性レンサ球菌が、通常存在しないところ、例えば、血液や筋肉や肺といった場所にまで、この細菌が入り込み、重症のA群 溶血性レンサ球菌感染症を引き起こすことがあります。これは、「劇症型溶血性レンサ球菌感染症」と呼ばれており、頻度は少ないですが、「壊死性筋膜炎(Necrotizing fasciitis : NF)」と「A群 溶血性レンサ球菌毒素性ショック症候群(Streptococcal toxic shock syndrome : STSS)」といった命にかかわるような重症例になる場合もあります。

壊死性筋膜炎(NF)では、俗に言う「ヒト食いバクテリア(the flesh-eating bacteria)」が、筋肉、脂肪組織、皮膚組織を破壊します(なお、A群 溶血性レンサ球菌以外にも「ヒト食いバクテリア(the flesh-eating bacteria)」と呼ばれている細菌があります)。

A群 溶血性レンサ球菌毒素性ショック症候群(STSS)では、急激な血圧低下、および腎臓・肝臓・肺等の機能低下を起こします。

壊死性筋膜炎(NF)の患者の約20%とA群 溶血性レンサ球菌毒素性ショック症候群(STSS)の患者の半数以上が亡くなります。劇症型溶血性レンサ球菌感染症の他の型(敗血症や肺炎など)では、約10-15%が亡くなります。

(横浜市衛生研究所WEBページ「A群溶血性連鎖球菌感染症について」を一部改変)

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/strepto1.html>

[検査研究課 細菌担当]

医動物検査

医動物室における平成22年1～3月の検査件数を表に示しました。

【行政検査:福祉保健センター、市場食品衛生検査所など行政からの依頼】

食品中異物検査が2件(ボイルホタルイカに混入したコウラナメクジ科、野菜炒めに混入した異物)、種類同定検査が4件(オオワラジカイガラムシの1齢幼虫、ゴキブリの糞、ガイマイゴミムシダマシの幼虫、コウカアブの幼虫)でした。

【依頼検査:市民、事業者からの有料依頼】

種類同定検査が2件(タバコシバンムシの幼虫、ヒラタチャタテ)でした。

【その他:感染症媒介昆虫等の市内における生息状況を把握するために行う調査や市民からの問い合わせ等】

中区、磯子区、南区でドライアイス併用ライトトラップを用い、週に1回飛翔昆虫調査を行いました。1～3月中に39定点の調査を行いました。

また、中区の5飲食店、47定点で粘着式トラップによるチャパネゴキブリの生息状況調査を実施しました。1～3月中にのべ561ヶ所の調査を行いました。

感染症媒介昆虫調査の一環として、磯子区において雨水枡における蚊幼虫調査および粘着式トラップを用い、飛翔昆虫調査を行いました。

検査試験項目	平成22年			平成21年4月	
	1月	2月	3月	～平成22年3月	
行政検査	種類同定検査	1		36	件
	食品中異物検査	1		13	件
	ウエストナイル熱蚊検査				
	採集地点数			200	定点
	個体数			5,592	個体
依頼検査	種類同定検査	2		8	件
	食品中異物検査			2	件
	発生状況調査(ダニ類)				
	調査回数			0	件
	個体数			0	個体
	殺虫剤効力試験			16	件
その他	ゴキブリ調査	192	187	182	2,364カ所
	飛翔昆虫調査	12	13	14	154定点
	その他の調査等	80	80	80	1,547件
	問い合わせへの回答	8	5	8	177回

検査試験項目等 解説

種類同定検査

福祉保健センター、市民、事業者などから依頼のあった昆虫・ダニ類の種を調べます。種が明らかになることにより、生態等が判明し、その発生時期、発生場所、害の有無などに基づいて駆除の必要性、駆除方法、予防法などが明らかになります。

食品中異物検査

福祉保健センター、市民、事業者などから依頼のあった食品に混入した昆虫の種を調べます。種が明らかになることにより、生態等が判明し、混入経路を推定する一助となります。

ウエストナイル熱媒介蚊調査

健康福祉局の「ウエストナイル熱対策事業」におけるウエストナイルウイルスの調査を行っています。種ごとのウイルス保有状況を調べるため、市内公園や港湾地区などで採集された蚊を分類同定します。なお、採集した蚊についてはウイルス担当において、日本脳炎ウイルスの検査も合わせて行っています。なお、検査結果については、衛生研究所WEB ページ(病原体情報)をご覧ください。
<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsdsc/pathogen/infckakekka.html>



ダニ類等発生状況調査

市民からのかゆみや虫刺されの相談に基づいて、必要に応じて、住宅内でのダニ検査を行います。ダニ発生の有無を調べ、発生している場合には人を刺すダニであるかなどの検査を行います。

殺虫剤効力試験

新しく開発された防疫用殺虫剤の効力試験を、室内(基礎)および野外(実地)で行います。

ゴキブリ調査

実際に営業している飲食店におけるゴキブリの生態を把握するため、また殺虫剤の実地効力試験の予備調査として、ゴキブリ生息状況調査を行っています。

飛翔昆虫調査

ライトトラップを用い、時期ごとに大量発生している昆虫類等の発生状況や感染症媒介昆虫である蚊類成虫を中心とした飛翔昆虫の発生状況を調査しています。

その他の調査等

21年度は、雨水枡内での蚊、その他の害虫の生息状況調査、ヒトスジシマカ成虫の捕獲調査を行っています。

問い合わせ

市民の方などから相談のあった、昆虫・ダニ、昆虫媒介性疾病、殺虫剤などに関する不安、疑問に回答、助言、指導をします。

写真:コウカアブ幼虫(ミスアブ科)

ハエの仲間で、終齢幼虫の体長は約20mm。体は平べったく、モゾモゾ動きます。畜舎、コンポストなどから発生します!!

【 医動物担当 】

衛生研究所WEBページ情報

(アクセス件数・順位 21年度2月分、電子メールによる問い合わせ・追加・更新記事 21年度3月分)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、1998年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

2008年4月、市民にわかりやすくかつ迅速な情報提供を目指して、リニューアルを行いました。

今回は、2010年2月のアクセス件数、アクセス順位及び2010年3月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については総務局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (2010年2月)

2010年2月の総アクセス数は、142,971件でした。主な内訳は、感染症60.1%、食品衛生16.0%、保健情報10.6%、検査情報月報3.8%、生活環境衛生1.5%、薬事1.5%でした。

(2) アクセス順位 (2010年2月)

2月のアクセス順位(表1)は、第1位が「マイコプラズマ肺炎について」、第2位が「衛生研究所トップページ」、第3位が「ロタウイルスによる感染性胃腸炎について」でした。

第1位に「マイコプラズマ肺炎」が入りました。

国立感染症情報センターの報告によりますと、マイコプラズマ肺炎の定点あたり報告数は、第6～8週(2/8～28)と3週連続で増加しています。

表1 2010年2月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	マイコプラズマ肺炎について	6,383
2	衛生研究所トップページ	3,324
3	ロタウイルスによる感染性胃腸炎について	3,286
4	大麻(マリファナ)について	2,830
5	感染症発生状況	2,489
6	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	2,274
7	感染症トップページ	2,180
8	性器ヘルペス感染症について	2,037
9	サイトメガロウイルス感染症について	2,035
10	アデノウイルス感染症について	2,033

データ提供:総務局IT活用推進課

第3位に「ロタウイルスによる感染性胃腸炎について」が入りました。冬期に流行する感染症についての関心が高く、アクセス件数が増加したものと思われます。

また、「サイトメガロウイルス感染症について」や「アデノウイルス感染症について」と、先月にはトップ10入りしていなかった感染症が上位10位以内に入りました。

第4位に「大麻(マリファナ)について」が入り、12月・1月に引き続き、薬物関係の記事に関心が高いことが伺えました。

(3) 電子メールによる問い合わせ (2010年3月)

2010年3月にホームページのお問い合わせフォームを通していただいた電子メールによる問い合わせの合計は、1件でした(表2)。

表2 2010年3月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
クリプトコッカス症について	1	衛生研究所(感染症・疫学情報課)

2 追加・更新記事 (2010年3月)

2010年3月に追加・更新した主な記事は、10件でした(表3)。

表3 2010年3月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
3月4日	食品衛生に関する話題 (遺伝子組換え食品の検査・アレルギー物質を含む食品の検査)	更新
3月9日	肺炎球菌感染症について	更新
3月10日	ヘモフィルス-インフルエンザb型菌(Hib)感染症について	更新
3月12日	感染症に気をつけよう(3月号)	追加
3月17日	ポリオ(小児麻痺・急性灰白髄炎)について	更新
3月18日	旋毛虫感染症(トリヒナ症)について	更新
3月23日	急性灰白髄炎の届出基準が変更になりました	更新
3月23日	ロタウイルスによる感染性胃腸炎について	更新
3月24日	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	更新
3月26日	高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)の発生状況	更新

【 感染症・疫学情報課 】